

小山三中だより

ひまわり



学校教育目標

【目指す生徒像】

自ら進んで学習する生徒
正しく判断し行動する生徒
心身を鍛え逞しく生きる生徒

2024.3.22発行(第11号)

小山市立小山第三中学校

旅立ちの日に ～ 夢をもとう～

学校長 高野 健一

3月8日、3年生の皆さんがめでたく、「卒業」を迎えました。教職員一同、心から卒業を祝うとともに、これからの活躍を大いに期待するものです。以下、式辞を紹介させていただきます。

式 辞 (前半あり)

本日はご多用の中、三中学区自治会長様、学校運営協議会委員様、PTA本部役員様を御来賓にお迎えし、第42回小山第三中学校卒業式を、このように盛大に挙行できますこと、厚くお礼申し上げます。

皆さんは、コロナ禍において入学をし、様々な教育活動が中止や縮小の状況でありましたが、皆さんが3年間、小山第三中学校で積み上げてきたものは、何ら色あせることはありません。

皆さんは、本校の校風である「質実剛健」と「文武両道」の輝かしい伝統を受け継ぎ、三中生としての自覚と誇りである「三中プライド」を胸に、学校生活を送っていました。

特に今年度は、最上級生として、本校の伝統ともいえる「三中三大行事」運動会、三中祭・合唱コンクール、駅伝大会といった学校行事におきまして、笑顔を絶やさず、同級生や後輩に声をかける姿勢が数多く見られ、学校全体を牽引していく、統率力・団結力は目を見張るものがありました。その都度、さすが三中の3年生だと誇らしく感じるとともに、こうして三中の伝統が、脈々と引き継がれていくのだと感じました。また、私が皆さんを誇らしく思うのは、単に学校行事の取り

組みが良いだけではありません。むしろ、日頃の生活の中に私は皆さんの素晴らしさを感じています。朝の清々しいあいさつに始まる学校生活、授業への意欲的な姿勢、無言清掃、さらに、各種の集会や部活動への取り組み等、本当に素晴らしいものがありました。

今日は皆さんが卒業後も自分の意志でしっかりと歩いてってもらいたいという願いを込め、はなむけの言葉に代えて、私の好きな言葉を贈らせていただきます。

「夢なき者に成功なし」という言葉です。

夢なき者に理想なし
理想なき者に計画なし
計画なき者に実行なし
実行なき者に成功なし
故に、夢なき者に成功なし
吉田 松陰

この言葉は、幕末や明治時代に活躍した、多くの人を育てた吉田松陰の言葉です。繰り返すと、「夢のない人は成功しませんよ」ということだと思います。今ここで、皆さんに大きな夢や目標を語りなさいと言っても難しいことであると思います。しかし、大切なことは、自分の将来について、漠然とした思いであっても、夢や目標をもってほしいということです。その目標に対し、どのように達成しようか、実現しようか計画が必要になります。そして、計画を立てるということは、目標を達成させるために必要な道筋を設定することです。いよいよ、4月からは、皆さん自身が選んだ道へ、それぞれが進んで行くこととなります

が、必ずしも平穏で、なだらかな道ばかりではありません。時には、苦しいことや辛いこともあろうかと思えます。その際、卒業生の皆さんにあっては、目標を定め、自分の夢や理想の実現に努めるとともに、他の誰にも真似できない個性を発揮してほしいと願っています。

次に、これまでも、繰り返し申し上げてきたことですが、私たちが生きてく上での基本である、生命尊重・人権尊重に心がけてください。皆さん、一人一人が大切であり、かけがえのない存在であるように、この世に生きとし生けるものすべてが、同じようにかけがえのない大切な存在なのです。このことを、しっかりと認識し、人のことを思いやる優しい気持ちをもち、素直で心広い人に育ってほしいと願っております。さらに、この3年間、皆さんにはたくさんの出会いがあったと思えます。素敵な出会いは、時に、自分の進む方向や、生き方を決める道しるべとなってくれます。どうぞ、これからも出会いを大切にしてください。皆さんと三中で過ごした日々は本当に楽しかったです。ありがとう。

結びに、卒業生の皆さんには前途洋々たる未来が広がっています。小山第三中学校の卒業生であることを「誇り」に、それぞれの道を歩んでください。皆さんの未来に幸多からんことを願って式辞といたします。

在校生代表送辞

卒業生代表

「千里鶯啼いて緑紅に映ず。」

花は清々しい香りを放ち、校舎を吹き渡る風は新しい春の訪れを告げています。小鳥のさえずりや芽を出した草木も、今日という日を暖かく讃えているように感じます。このような輝かしい日に小山第三中学校を旅立たれる3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございました。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。

先輩方との出会いは2年前の入学式。慣れない制服や初めての中学校生活に不安を感じていた私たちをあたたかく迎え入れてくださいました。それから今日まで、先輩方には、学校生活のいろいろな場面で私たちに手本を示していただきました。コロナ禍が明け、だんだん戻りつつある三中三大行事。行事が行われるたび、先輩の背中の大ささを感じていました。5月の運動会。すべての競技に全力で取り組む姿、白熱する展開に私たちも胸が熱くなりました。頑張る仲間を応援される姿にも熱い思いが感じられ、クラスの団結力を感じさせら

れました。また会場設営や片付けでも率先して動く姿は三中のリーダー像を体現するものでした。

10月の三中祭。合唱コンクールの舞台で情感を込めて表情豊かに歌い上げる姿と、響き渡った歌声に会場の全てが引き込まれ、私たちに大きな感動を与えてくださいました。初めて鑑賞された保護者の皆さまも、心に沁みただけではないでしょうか。

11月の駅伝大会。その日は見事な青空のもと、クラスで襷をつなぎました。襷がつながる一瞬一瞬にクラスの絆がより強まっていくような気持ちにさせられました。走り終わった後の、爽やかで達成感に満ちた先輩方の表情はとても素敵に見えました。

そして、先輩方を一番身近に感じ、心に残っているのは部活動です。今振り返ってみれば、あっという間に過ぎ去ってしまった月日。その中でも思い出すのは、先輩方との楽しかった日々です。いつも明るくたくさん話しかけてくださり、私たちは辛い練習の中でも笑顔でいることができました。先輩方は辛い練習の時も決して手を抜かず仲間と練習していっていただきました。いつも先頭に立ち、一つの目標に向かって部員全員を導いてくださいました。常に自分を高めようと思えないところでも頑張る姿。どんなに大変でも私たち後輩のために声をかけて、丁寧に教えてくださる心配り。悩んでいることを真剣に相談にのってくださる優しさ。先輩方と関わった時間は、私たちにとってこの上ない宝物です。私たちの今があるのは先輩方のおかげです。先輩方にはまだまだ及びませんが、少しでも憧れの先輩に近づけるように切磋琢磨していきます。

いよいよお別れの時が近づいてまいりました。先輩方のご卒業した後の登下校での道のり、ぼっかりと開いた教室、それを見ることになると思うととても寂しくてなりません。しかし、この寂しさを乗り越えた先に未来はつながっていきます。これからは私たちが「三中の伝統」を受け継ぎ、更に発展させていくことをお約束いたします。先輩方は、これから先、一人ひとり違う道を歩まれます。その道のりは、楽なものではなく、大きな困難や壁にぶつかることもあるでしょう。そんなときは、この小山第三中学校で過ごした日々を思い出してください。どんな時でも仲間と手を取り乗り越えてきた経験が、きっと大事を成し遂げる原動力になるはずです。この3年間を胸に明るい未来を切り拓いてください。

最後になります。先輩方の輝かしい未来と、これからのご活躍を祈念し、送辞とさせていただきます。

卒業生代表答辞

卒業生代表

長く厳しかった冬も終わりを告げ、桜の花びらがそよ風に舞う季節となりました。私たち卒業生は、名残深いこの学び舎を去ります。私たちが過ごした中学校生活のどこを切り取って思い出してみても、素晴らしかったと思います。色鮮やかな学校生活を送ることができたのも、ひとえに先生方、友のおかげです。そして、これまで私たちに寄り添い支えてくれた先生方や家族への感謝の気持ちは、どんなに言葉を重ねても言い尽くせません。

思い返せば3年前の春、自分や友達の見慣れない制服姿に少し照れながら、入学式を迎えました。自分の名前を見つけ、クラスメイトの名前を眺め、期待と不安が入り混じったまま教室のドアを開けたことを今でも覚えています。初めての集会、初めての委員会、何をとってもそこには不安と緊張があり、右も左もわかりませんでした。しかし部活動や学校行事、先輩との交流などを通して、少しずつ「三中」の看板を背負うことの重みを実感するようになりました。

それから月日は経ち、私たちが「先輩」と呼ばれるようになった2年の春。「先輩」と呼ばれるにふさわしい人になろうと毎日必死でした。学校を離れ、新鮮な経験ができた校外学習。大自然の中ゴールを目指し、仲間と声をかけあい歩いた戦場ヶ原でのハイキング。滝壺近くで見ることが出来た湯滝の迫力には圧倒されました。歩ききった達成感と爽快感で晴れ晴れとしていました。立志式では14年間の人生を振り返るとともに、親からの感謝の手紙を読み、胸がいっぱいになりました。

そして、いよいよ最終学年を迎えました。クラスが新しくなって間もない頃に訪れた奈良・京都。明るいクラスメイトや先生方のおかげで移動中も笑いが絶えませんでした。雨に降られて急いで撮った集合写真。行先からスケジュールまで自分たちで決めた班活動。荘厳な寺院の見学に、神経を研ぎ澄ませた座禅体験。夢中になって学び、楽しんだ3日間でした。帰りのバスに揺られながら、達成感とともに、どこかさみしさを感じました。

多くの感動を生んだ三大行事。新緑の若葉がのぞく6月。運動会ではみなぎる太陽の下、友の懸命な姿に声を枯らすまで応援しました。一糸乱れぬ三中ソーラン・三中なでしこ。毎日の練習で積み

重ねてきた努力が本番で実を結んだとき、私たちは感動を共有することができました。

澄み切った青空に秋風が吹き抜ける10月。三中祭へ向けて毎日のように、合唱の練習に明け暮れました。時には、意見の衝突もあり、準備が間に合うのかどきどきしたこともありました。しかし、最初はバラバラだった音も、いつしか美しいハーモニーに変わっていました。迎えた当日、大勢の観客を前に、足がすくみながらも歌い切ったクラスメイトの真剣なまなざしは忘れられません。

凍てつくような寒さの11月。駅伝大会では受け取った襷をぎゅっと握りしめ、クラスのためにつなごうと、懸命に駆け抜けました。完走したあとに互いの頑張りを讃え合ったあの光景は、私の思い出の一ページに深く刻まれています。

3年間、本気で打ち込んだ部活動。日々切磋琢磨する中でつらいこともあり、苦しいこともあり、投げたしたいこともあり。しかし、部活のみんなが、肩をたたいて笑い飛ばしてくれました。その笑顔に、そのエールに救われたことが何度もありました。3年間の部活動は友の存在があってこそのものでした。3年間一緒にいてくれて、ありがとう。そして、私たちとともに時間を過ごした後輩のみんな。カッコよい姿は見せられたでしょうか？次はあなたたちが「三中プライド」を見せるときです。頼れる存在になれるよう、頑張ってください。

私たちと同じ時を過ごし、喜怒哀楽をともにした先生方。先生方は、私たちが笑顔で学校生活を送れるよう、常に配慮してくださっていました。心を鬼にして指導してくださった先生。行事となると生徒と一緒に、心から楽しんでくださった先生。夜遅くまで一人一人の進路に真剣に向き合ってくださいました先生。お忙しい中、合間を縫って授業や進路の疑問に答えてくださった先生。そんな先生方を、私たちは未熟さゆえに困らせることもありましたが、卒業という節目を迎え3年間の振り返る今、教えていただいたことが、いかに貴重なことであつたか痛感しています。今まで大変お世話になりました。先生方に教えていただいたことを忘れることはありません。母校を離れ、それぞれの場所で励む私たちを見守っててください。

1年前の学年集会で、当時の学年主任でいらっしゃった大場早苗先生は、私たちにこんなことをおっしゃいました。「私たちは、おなかいっぱいになるまでご飯を食べて、ぐっすり寝て、何不自由のない健康な体で毎日を過ごしている。それがどれほどありがたいことなのか、どれほど恵まれていることなのか、私たちは気づけない。」振り返ると、

何気ない日常は目に見えない幸せであふれていて、そしてその幸せは誰かの温かい思いによってできています。毎朝、教室のドアを開ければ、当たり前に友達がいて、先生がいました。行事のたびに一喜一憂し、些細な会話で笑って、思いがけず涙を流した日もありました。そんなみんなとも今日でお別れです。別れという言葉がこんなにも寂しく感じられるのは、きっと、みんなと過ごした日々が私にとってかけがえのない宝物だからなのだと思います。

15年間、どんな時も近くで見守って、子を信じ応援してくれたお父さん、お母さん。今までそんな二人のとめどない愛情に、優しさに、甘えすぎていたのかもしれませんが。この3年間、楽しいことばかりではありませんでした。素直になれず、荒々しく放った言葉に後悔した日もありました。弱い自分と葛藤し、涙した夜もありました。それでも、心の片隅で常に私を支え続けていたのは、確かに2人の存在でした。今日、この場で卒業を迎える私は、2人の目にどのように映っていますか。頼りなかった背中が、少しは成長したでしょうか。保護者の皆様が受付で渡された封筒は、普段素直になれない私たちが、思いを込めて綴った感謝の言葉です。卒業式後に読んでください。まだまだ未熟な私たちはこれからもたくさん迷惑をかけるはずです。あともう少し、もう少しだけ見守っててください。

明日から、私たちはそれぞれが追いかける夢へと一歩踏み出します。私たちは、道の途中で数えきれないほどの失敗や間違いを繰り返すことでしょう。しかし、夢は簡単に手に入らないからこそ夢なのです。立ち足かかる壁は私たちを明るい道へと導いてくれるはず。点と点がつながって線になり、やがて面になるように、小さな努力を怠らず自分の夢をつかんでみせます。そして、噛みしめてきた幸せをだれかに与えられるような人に必ずなります。

在校生のみなさん。時代の変化が目まぐるしい今、三中は転換期にあります。変わらないもの、変わらなければいけないもの、それらを私たちが主体となって判断しなければなりません。紡いできた伝統とともに「新たな三中」を皆さん自身で考え、創りあげて欲しいと思います。「三中プライド」「三中魂」を胸に頑張ってください。

まだまだ言い尽くせない思いはありますが、お別れの時が来ました。私たちにとって、この校舎は青春そのものです。三生中として過ごした日々を誇りを持ち、明日からも力強く歩んでいきます。最後に、小山第三中学校がこれからも素晴らしい歴史

を刻んでいかれますことをお祈りし、答辞の言葉といたします。

卒業式に際しまして、元本校職員、各出身小学校の元担任の先生方をはじめ、多くの方から祝福の御言葉を頂戴いたしました。この場を借りて御報告いたします。

<全校集会> 3月11日(月) 1校時

3年生が卒業して、1、2年生での生活が始まりました。進級に備えて、修了式までの期間をどう過ごすかを生徒指導主事や各学年の先生方から生徒へ語りかけました。

4月にはそれぞれが進級して新たに1年生を迎え入れることとなります。一人一人が最上級生や先輩となる意識をもち、修了式までの9日間に意味を持たせていきたいと思えます。

御家庭におかれましても、先輩となることの意味を保護者の皆様の体験談等を交えながらお子様に語りかけてくださいますようお願いいたします。

<今後の予定>

○修了式 3月22日(金)

※生徒下校は10:50~となります。
給食はありません。

○離任式 3月29日(金)

※生徒登校 9:20~ 9:40
朝の会 9:45~ 9:55
清掃 10:05~10:20
離任式 10:45~11:35
帰りの会 11:55~12:10
生徒下校 12:10~

※転退職教職員の見送りは

15:00~【予定】

※転退職教職員の情報は3月24日(日)の新聞発表に合わせて、同日のお昼頃にコネクトメールにてお知らせします。

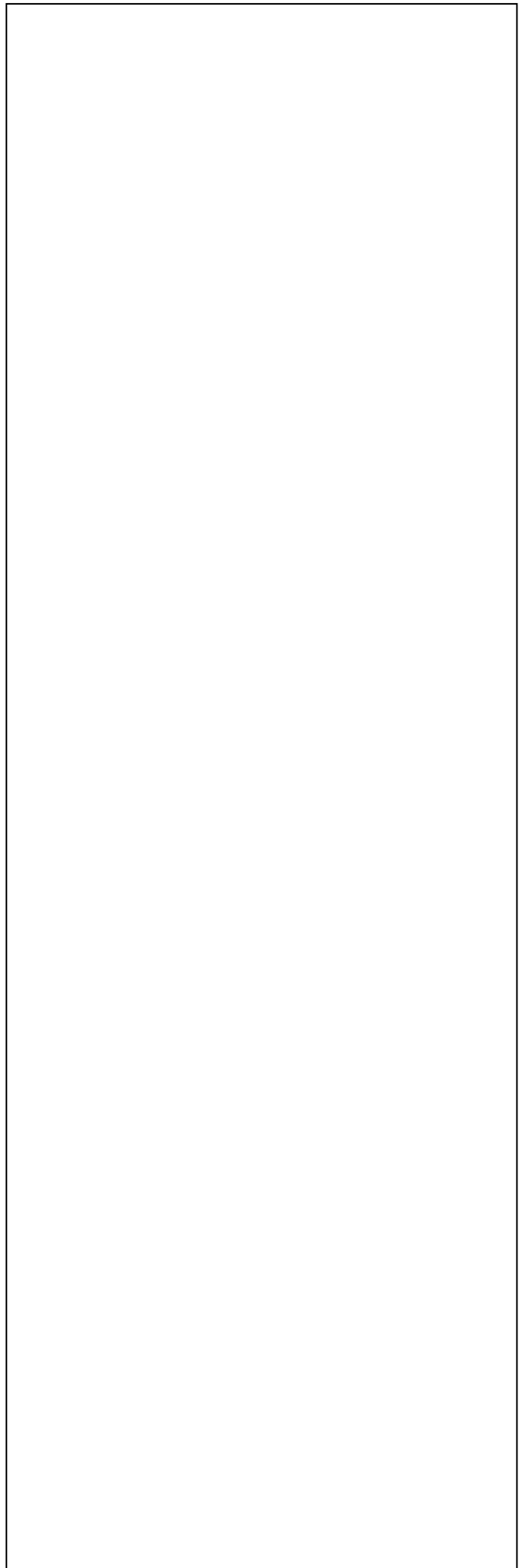
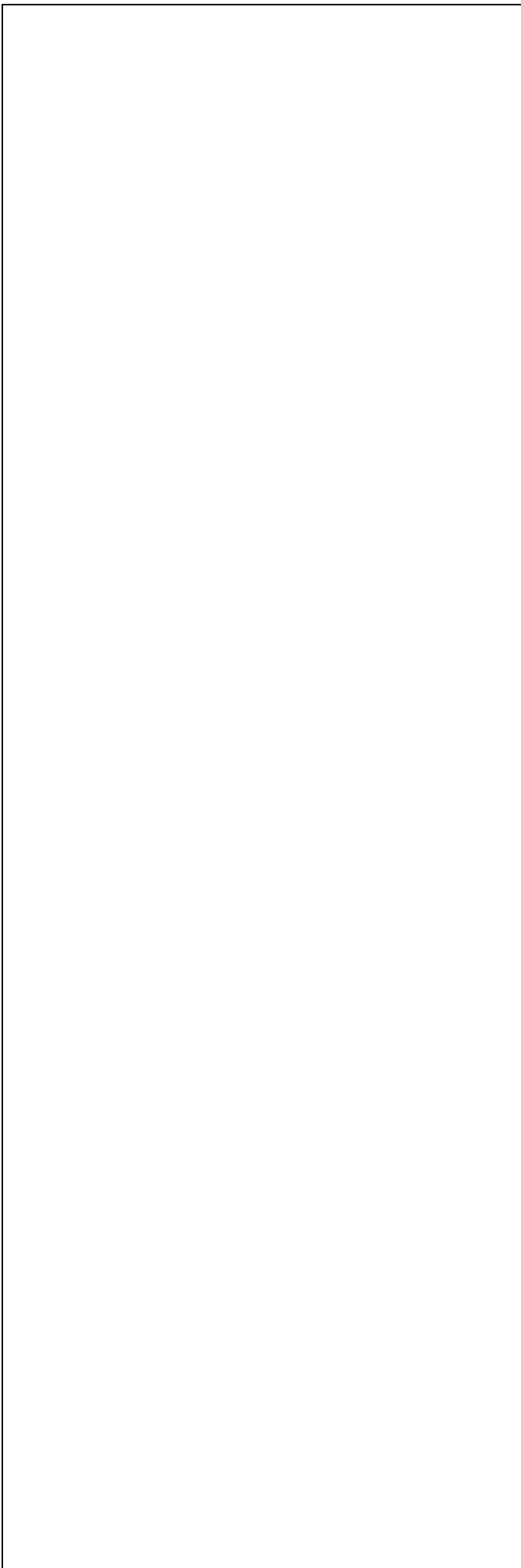
○春休み 3月23日(土)

~4月7日(月)

○新任式、始業式 4月8日(月)

※生徒登校 8:00
朝の会 8:15~ 8:25
新任式 9:00~ 9:20
始業式 9:20~ 9:40
諸活動 9:45~11:00
準備等 11:10~

※給食はありません。



★本日の修了式にて学年代表生徒が発表した原稿

内容になります。

1年間の反省（仮題）

1年生代表 組 OO OO

3月8日、3年生の皆さんがめでたく、「卒業」を

2年生代表 組 OO OO

3月8日、3年生の皆さんがめでたく、「卒業」を

「千里鶯啼いて緑紅に映ず。」

花は清々しい香りを放ち、校舎を吹き渡る風は新しい春の訪れを告げています。小鳥のさえずりや芽を出した草木も、今日という日を暖かく讃えているように感じます。このような輝かしい日に小山第三中学校を旅立たれる三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。

先輩方との出会いは二年前の入学式。慣れない制服や初めての中学校生活に不安を感じていた私たちをあたたく迎え入れてくださいました。それから今日まで、先輩方には、学校生活のいろいろな場面で私たちに手本を示していただきました。コロナ禍が明け、だんだん戻りつつある三中三大行事。行事が行われるたび、先輩の背中の大ささを感じていました。

五月の運動会。すべての競技に全力で取り組む姿、白熱する展開に私たちも胸が熱くなりました。頑張る仲間を応援される姿にも熱い思いが感じられ、クラスの団結力を感じさせられました。また会場設営や片付けでも率先して動く姿は三中のリーダー像を体現するものでした。

十月の三中祭。合唱コンクールの舞台上で情感を込めて表情豊かに歌い上げる姿と、響き渡った歌声に会場の全てが引き込まれ、私たちに大きな感動を与えてくださいました。初めて鑑賞された保護者の皆さまも、心に沁みただのではないのでしょうか。

十一月の駅伝大会。その日は、見事な青空のもと、クラスで襷をつなぎました。襷がつながる一瞬一瞬にクラスの絆がより強まっていくような気持ちにさせられました。走り終わった後の、爽やかで達成感に満ちた先輩方の表情はとても素敵に見えました。

そして、先輩方を一番身近に感じ、心に残っているのは部活動です。今振り返ってみれば、あっという間に過ぎ去ってしまった月日。その中でも思い出すのは、先輩方との楽しかった日々です。いつも明るくたくさん話しかけてくださり、私たちは辛い練習の中でも笑顔でいることができました。先輩方は辛い練習の時も決して手を抜かず仲間と練習していらっしゃいました。いつも先頭に立ち、一つの目標に向かって部員全員を導いてくださいました。常に自分を高めようと思えないところでも頑張る姿。どんなに大変でも私たち後輩のために声をかけて、丁寧に教えてくださる心配り。悩んでいることを真剣に相談ののってくださる優しさ。先輩方と関わった時間は、私たちにとってこの上ない宝物です。私たちの今があるのは先輩方のおかげです。先輩方にはまだまだ及びませんが、少しでも憧れの先輩に近づけるように切磋琢磨していきます。

いよいよお別れの時が近づいてまいりました。先輩方のご卒業した後の登下校での道のり、ぼっかりと開いた教室、それを見ることになると思うととても寂しくてなりません。しかし、この寂しさを乗り越えた先に未来はつながっていきます。これからは私たちが「三中の伝統」を受け継ぎ、更に発展させていくことをお約束いたします。

先輩方は、これから先、一人ひとり違う道を歩まれます。その道のりは、楽なものではなく、大きな困難や壁にぶつかることもあるでしょう。そんなときは、この小山第三中学校で過ごした日々を思い出してください。どんな時でも仲間と手を取り乗り越えてきた経験が、きっと大事を成し遂げる原動力になるはずです。この三年間を胸に明るい未来を切り拓いてください。

最後になりますが、先輩方の輝かしい未来と、これからの活躍を祈念し、送辞とさせていただきます。